

第八十一回  
帝國議會  
貴族院

# 戰時行政特例法案特別委員會議事速記録第一號

## 付託議案

### ○戰時行政特例法案

○許可認可等臨時措置法案

○教育基金特別會計法外二十三法律ノ廢止ニ關スル法律案

## 委員氏名

委員長 伯爵溝口 直亮君  
副委員長 織田 萬君

侯爵西郷 從德君

侯爵淺野 長武君

子爵谷 儀一君

子爵織田 信恒君

男爵赤松 範一君

塚本 清治君

伍堂 卓雄君

男爵山中秀二郎君

男爵近藤 滋彌君

山岡萬之助君

瀧 正雄君

竹下 豐次君

野田六左衛門君

昭和十八年二月二十日(土曜日)午前十時  
十一分開會

○委員長(伯爵溝口直亮君) 只今ヨリ委員

會ヲ開催致シマス、二案同時ニ一括シテ議  
題トスルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(伯爵溝口直亮君) 御異議ナイト

認メマス、然ラバ三案一括議題ニ供シマス  
○政府委員(森山銳一君) 只今議題トナッ

テ居リマスル戰時行政特例法案及許可認可

等臨時措置法案ニ付キマシテハ、既ニ本會  
議ニ於テ國務大臣ヨリ其ノ提案理由ニ付テ  
御説明ヲ申上ゲ、教育基金特別會計法外二  
十三法律ノ廢止ニ關スル法律案ニ付キマシ  
テハ、本會議ニ於テ政府委員ヨリ其ノ提案  
理由ノ御説明ヲ申上ゲタ次第デアリマスガ、  
茲ニ稍、詳細ニ互ツテ是等ノ法律案ノ内容  
ノ大體ニ付テ御説明申上ゲタイト存ジマス、  
先ヅ戰時行政特例法案ニ付キマシテ御説明  
申上ゲマス、本法案ハ生産力ノ飛躍的擴充  
其ノ他各般ニ互ル綜合國力ノ擴充運用上ノ  
具體的要請ニ應ジマスル爲ニ、法律ノ一般  
的ナル規律ニ對シ、勅令ノ定ムル所ニ依リ  
特別ノ例外的ナル措置ヲ講ジ得ルノ途ヲ拓  
カムトスルモノデアリマス、以下本法案ノ  
内容ト致シマスル所ヲ、順ヲ逐ツテ御説明致  
シマス、先ヅ第一項デアリマスガ、第一項  
ハ本法ノ骨子ヲ成ス規定デアリマシテ、大  
東亞戰爭ニ際シ、生産力ノ擴充其ノ他綜合  
國力ノ擴充運用ノ爲特ニ必要アルトキハ、  
勅令ノ定ムル所ニ依リ、一、法律ニ依ル人  
又ハ法人ノ行爲ニ對スル禁止又ハ制限ノ全  
部又ハ一部ヲ解除シ、二、法律ニ依リ監督  
又ハ命令、處分其ノ他ノ行爲ヲ爲ス一ノ行  
政廳又ハ官吏ノ職權ヲ他ノ行政廳又ハ官吏  
ヲシテ行ハシムルコトヲ得ルコトヲ定メタ  
モノデアリマス、即チ本項ノ第一號ノ内容  
ト致シマスル所ハ、法律ガ人又ハ法人ノ行  
爲ニ對シ、一定ノ禁止又ハ制限ヲ爲シテ居  
リマスル場合ニ、其ノ禁止又ハ制限ハ通常  
ノ場合ニ於キマシテハ、公益上其ノ他各種  
ノ理由ヲ以チマシテ、必要ナコトデアアルノ

デアリマスガ、其ノ禁止制限ノ爲ニ、重要  
軍需物資ノ生産事業ノ敏活圓滑ナル運営ガ  
妨ゲラレ、其ノ外綜合國力ノ擴充運用ニ支  
障ヲ生ズルト云フヤウナ時ニハ、戰時中ノ  
特別ノ措置トシテ、斯カル法的制約ヲ排除  
スルガ如キモノデアリマス、本號ニ人又ハ  
法人ノ行爲ニ對スル禁止又ハ制限、トアリ  
マスノハ、單ナル警察的ナル意味ニ出ツル  
禁止又ハ制限ニ止マラナイデ、特定資格者  
以外ノ者ノ一定事業經營ノ禁止等ヲモ含ム  
モノトシテ、其ノ解除ヲモ考ヘテ居ルノデ  
アリマス、尙本號ト致シマシテハ、單ニ生  
産擴充ヲ目的トスル場合ノミニ限ラナイデ、  
廣ク各般ノ綜合國力ノ擴充運用上、必要ナ  
ル場合ニモ發動スルモノデアアルコトヲ御承  
知置キ願ヒタイノデアリマス、此ノ點ニ付  
キマシテハ、第二號ノ規定モ亦同様デアリ  
マス、本號ノ發動ハ未ダ具體的ニ確定シテ  
居ル譯デアリマセヌガ、若干ノ事例ヲ舉  
ゲテ御審議ノ御參考ニ供シタイト存ジマス、  
例ヘバ特別ノ必要アル場合ニハ、工場法ノ  
十六歳未満ノ者及ビ女子ノ就業時間ノ制限  
ヲ緩和シタリ、關稅法ノ外國貿易船ノ開港  
以外ヘノ入港禁止ヲ解除シタリ、水先法ノ  
水先人タルノ年齢上ノ資格制限ヲ緩和スル  
ガ如キコトガ考ヘラレルノデアリマス、次ニ  
本項第二號ノ内容ト致シマスル所ハ、監督  
又ハ命令處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スベキ權限  
ガ、法律ニ依ツテ或行政廳又ハ官吏ノ職權ト  
シテ定メラレテ居リマス場合ニ、事宜ニ應  
ジテ其ノ權限ヲ他ノ行政廳又ハ官吏ヲシテ  
行ハシムルコトヲ得ルコトト爲スノデアアリ

マス、デ是ハ指揮監督等ノ行政機構ノ單純  
一元化ノ要請ヤ、上級行政廳ノ權限ノ下級  
行政廳ヘノ委讓ノ要請ニ應ズルモノデアリ  
マス、例ヘバ砂鑛法上ノ主務大臣ノ職權ヲ  
鑛山監督局長ヲシテ行ハシムルガ如キハ、  
其ノ一例デアリマス、本號ニ於キマシテ行政  
廳ト謂ヒマスノハ、行政官廳及市町村長等  
ノ公共團體ノ首長タルモノヲ謂フノデアリ  
マシテ、司法裁判所、軍隊等ガ裁判事務、統  
帥活動ヲ爲ス場合ノコトハ勿論含シテ居リマ  
セヌ、ソレカラ市町村其ノ他公共團體其ノ  
モノハ之ヲ含シテ居ナイノデアリマス、而シ  
テ行政官廳ノ職權ヲ市町村其ノ他法人ナド  
ヲシテ行ハシムル必要ガアリマス場合ハ、昭和  
十七年法律第十五號即チ「國家總動員法」ノ  
第十八條ノ法人等ヲシテ行政官廳ノ職權ヲ行  
ハシムルノ件」ト云フ法律ノ運用ニ俟ツモノデ  
アリマス、以上第一項第一號及第二號ヲ通ジ  
マシテ、何レモ法律ニ對スル特別例ヲ設ケム  
トスル趣旨ニ出ヅルモノデアリマシテ、勅令  
以下ニ依ル禁止制限又ハ行政廳又ハ官吏ノ  
職權ニ關スル事項ニ付キマシテハ本法ニ  
依ラズ、ソレノ勅令以下適當ナル形式  
ニ依ルベキモノデアリマス、而シテ實際  
問題ト致シマシテハ、禁止制限又ハ行政廳  
若シクハ官吏ノ職權權限ガ具體的ニ法律ニ  
依ツテ居ル場合、即チ本法ノ活用ニ依ラネ  
バナラヌト云フ場合ハ寧ロ少イノデアリマ  
シテ、勅令以下ニ依リ定ツテ居ル場合、即  
チ勅令以下ノ形式ニ依ツテ本法案ノ企圖ス  
ルガ如キ趣旨ヲ達成シ得ル場合ガ非常ニ多  
イト考ヘラレルノデアリマス、次ニ第二項

デアリマスガ、第二項ハ第一項第二號ノ規定ニ依リマシテ、一ノ行政廳又ハ官吏ノ職權ヲ他ノ行政廳又ハ官吏ノ職權ニ移シマシタ場合ノ、罰則ノ適用ニ付テ支障ナカラシムルガ爲メ規定デアリマス、例ヘバ法律ニ依ル罰則規定トシテ「甲行政廳ノ處分ニ違反シタルトキハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス」トゴザイマスヤウナ場合、甲行政廳ノ處分權ヲ代行フ乙行政廳ノ處分ニ對スル違反行為ニ對シマシテモ、處罰ヲ爲シ得ルヤウニセムトスルモノデアリマス、次ニ第三項デアリマスガ、第三項ハ、第一項ノ規定實施ニ關聯シマシテ、必要ナル事項ヲ勅令ヲ以テ定メ得ルコトトシテ、本法ノ實施上遺憾ナキヲ期シタモノデアリマス、而シテ第三項ニ基ク勅令ニ依リマシテ、例ヘバ第一項第一號若シクハ第二號ニ依リ措置ヲ爲シタル場合、又ハ其ノ措置ヲ廢シタル場合ノ經過ノ事項トカ、第一項第一號ニ依リ禁止又ハ制限ヲ解除シタル場合ニ、其ノ實施ニ關聯シテ特ニ必要トセラル、一定ノ行政上ノ措置、第一項第二號ニ依リ措置ヲ爲ス場合ノ關係行政廳又ハ官吏間ノ聯絡方法等ヲ規定スルコトナラウカト考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ許可認可等臨時措置法案ノ内容ニ付キマシテ御説明申上ゲマス、政府ハ曩ニ行政簡素化ト致シマシテ、行政機構ノ改編、職員定員ノ縮減ヲ實施シタコトハ御承知ノ通りデアリマスガ、是ト相並シテ行政事務其ノモノヲ簡素ニシ、行政ノ刷新強化ヲ圖ルベキコトハ當然ノコトデアルト信ズルノデアリマス、又近時統制ノ強化等ニ伴ヒマシテ、許可認可等ヲ要スル事項ハ遽ニ激増シテ參リ、複雑多岐トナツテ居ル實情デアリマスガ、今日許可認可等ヲ要スル事

項ヲ再檢討、適當ナル整理ヲ斷行致シマスルコトハ、行政事務ヲ刷新強化シ、國民活動ヲ積極潤達ナラシムル爲メ喫緊ノ要務ナリト信ズルノデアリマス、而シテ政府ハ勅令、以下命令又ハ實際上ノ措置ニ依リ、行政事務ヲ簡素化シ得ルモノニ付キマシテハ、從前カラ既ニ之ヲ實行シテ參リ、今後モ亦著々實行シテ行カムト考ヘテ居ルノデアリマスガ、今回ノ法案ハ之ガ爲メ法律ヲ必要トスル事項ニ付キマシテ必要ナル措置ヲ爲シ得ルコトヲ定メムトスルモノデアリマス、以下順ヲ逐ツテ本法案ノ内容トスル所ヲ御説明申上ゲタイト思ヒマス、先ヅ第一項デアリマス、第一項ハ本法ノ骨子ヲ爲ス規定デアリマシテ、行政簡素化ノ爲メ必要アル時ハ法律ニ依リ、許可、認可、免許、特許、承認、検査、協議、届出、報告等ヲ要スル事項ニ付キマシテ、勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ不要トシ、簡易ナル代行ノ制度ヲ設ケ、申請等ガアツク場合、一定ノ期間ノ經過ニ依リマシテ當然許可認可等ガアツクモノト看做シ、一ツノ法令ニ依ル許可認可ガアツク時、他ノ法律ニ依ル許可認可等ガアツクモノト看做シ、許可認可等ニ關スル處分、行政廳等ノ職權ヲ移動シ、其ノ他手續又ハ處理ノ簡捷化ヲ爲スコトヲ得ルノ途ヲ拓イタモノデアリマス、本法ハ行政ノ範圍内ニ關スルモノデアリマシテ、裁判作用、統帥活動等ニ付キマシテハ適用セラル、モデハアリマセス、併シナガラ行政簡素化ノ目的内ナラバ、行政ノ廣汎ナル範圍ニ運用セラル、ノデアリマシテ、行政簡素化ヲ通ジマシテ生産増強ニ資スルコト亦多大ナルモノガアルト信ジテ居ルノデアリマス、尙本法案ノ用語デアリマスガ、許可認可等

ノ文字ヲ用ヒテ居リマスノハ、法文上ノ文字トシテ形式的ニ許可認可等ノ文字ガ用ヒラレテ居ル場合ヲ指スモノデアリマシテ、所謂學問上ノ用語トシテノ實質的ナル觀念ニ依リモノデアナイコトヲ、豫メ御承知置キテ、等ノ文字ヲ挿入致シテ居リマスノハ、認許、檢閱、通報等列擧ノ事項ト同様ニ取扱フベキ事項ガ相當存在スルコトヲ考慮致シタカラデアリマス、第一號ハ許可認可等ヲ要セザルコトト爲シ得ルコトト致シタノデアリマス、許可認可等ノ制度ヲ再檢討シ、之ヲ一般的ニ、全面的ニ不要許可認可事項トスル場合ト一般ニハ許可事項、認可事項トシテ存置致シマスガ、具體的ノ場合ニ限ツテ部分的ニ不要許可事項、不要認可事項ト致ス場合ガアルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、第二號以下モ皆同様デアルト御承知願ヒタイノデアリマス、第二號ハ許可認可等ニ代フルニ、簡易ナル代行制度ヲ以テスルコトヲ得ルコトト爲シタノデアリマス、例ヘバ或事項ニ付キマシテ許可認可ヲ受ケシムル代リニ、事前ノ報告ヲ爲サシムルコトトシ、必要アル時ニハ一定ノ措置ヲ要求シ得ルコトトシ、或ハ全ク事後ノ報告ノミニ止メテシマハウト云フガ如キデアリマス、第三號ハ許可認可等ノ申請ガアリタル時、一定期間ノ經過ニ依リマシテ、當然許可認可等アリタルモノト看做スコトヲ得ルコトトナシタノデアリマス、勅令以下ニ依ル許可認可等ニ付キマシテハ、曩ニ昨年一月一日ヨリ施行致シマシタ許可認可等行政事務處理簡捷令第二條以下ノ運用ニ依リマシテ、既ニ之ヲ實施致シテ居ル所デアリマス、今回ハ其ノ趣旨ヲ徹底致シマス

爲ニ、法律ニ依ル許可認可事項ニ付キマシテ同様ノ措置ヲ爲シ得ルコトトシ、以テ行政事務ノ簡捷化ヲ期シタモノデアリマス、本號ト致シマシテハ、相當廣汎ナル範圍ニ互ツテ其ノ活用ヲ見得ルモノト考ヘテ居ルノデアリマスガ、時局關係ノ法律ニ依ル許可認可等ニ付キマシテハ、特ニ其ノ必要性ガ多ク、其ノ效果モ多大ナルモノガアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、第四號ハ同一ノ事柄ニ付テ甲乙二ツノ法規ニ依ッテ許可認可等ガ必要トサレテ居リマス時ニ、甲ノ法規ニ依ル許可認可等ガアリマシタ時ハ、別ニ乙ノ法規ニ依ル許可認可等ヲ受ケナクモ、之ヲ受ケタルモノト看做スコトヲ得ルコトトシタノデアリマス、甲法令ニ依ルト致シマシタノハ、原因トナリマス許可認可等ノ方ハ必ズシモ法律ニ依ルモノデナク、勅令以下ノ命令ニ依ル許可認可等デアリマシテモ、之ヲ乙法律ノ適用ニ付テ、乙法律ノ許可認可等アリタルモノト看做ス必要ガアルカラデアリマス、之ニ反シテ乙法律ト致シマシタノハ、結果ヲ認メマス許可認可等ノ方ガ勅令以下ニ依ルモノデアリマス場合ハ、勅令以下ノ形式ニ依ッテ本號ノ如キ措置ヲ爲シ得ルノデアリマシテ、必ズシモ本法案ノ如ク法律ノ手段ニ依ル必要ハナイカラデアリマス、而シテ甲法令ニ依ル許可認可等アリマシタ時ハ、乙法律ニ依ル許可認可等ヲ不要トスレバ足ル場合ハ第一號ニ依ルノデアリマスガ、例ヘバ或種ノ事業法ノ如ク、特ニ當該事業法ノ許可ヲ受ケタルモノニ非ザレバ、其ノ事業法上ノ事業者トシテ特別ノ權利義務ノ主體トナリ得ナイト云フヤウナ場合ヲ考慮致シマシテ、乙法律ニ依ル許可認可等ヲ受ケタルモノト看做スコト

ト致シテノデアリマス、第五號ハ許可認可等ノ甲ノ行政廳又ハ官吏ノ職權ヲ乙ノ行政廳又ハ官吏ヲシテ行ハシメルコトヲ得ルコトト致シタノデアリマス、本號ニ於キマシテ行政廳ノ中ニハ裁判作用、統帥活動ヲ行フ司法裁判所、軍隊等ヲ含シテ居リマセヌ、又市町村其ノ他公共團體ヲ含マナイコトハ戰時行政特別法案ノ場合ト同様デアリマス、本號ハ法律ニ依リ許可認可等ノ職權ヲ行フ行政廳又ハ官吏ガ法律ニ依リ定メラレテ居ル時ニ於テ、其ノ職權ヲ移動セムトスル場合ニノミ適用セラレルノデアリマシテ、勅令以下デ行政廳又ハ官吏ノ職權ヲ變更シ得ル場合ニハ適用セラレル、モノデナイコトハ、他ノ各號ト同様勿論ノコトデアリマス、第六號ハ前各號ニ掲ゲタルモノノ外、法律ニ依リ許可認可等ヲ要スル事項ニ付テ手續又ハ處理ノ簡捷化ノ爲ニ必要ト考ヘラル、各般ノ措置ヲ執リ得ル途ヲ拓イタノデアリマス、行政事務ノ簡捷化ノ施策ト致シマシテ、大體適當デアリ、且效果的デアルト考ヘラレル事項ヲ第一號乃至第五號ニ掲ゲタノデアリマス、右以外ニ適當ナル方策ガアルナラバ、之ヲ取上ガテ實施シ得ルコトト致シテ居ルノデアリマス、手續又ハ處理ノ簡捷化ト申シマス、申請等ヲ爲ス者ノ側、又ハ之ヲ受理シ、處理スル者ノ側、雙方ニ關スル簡捷方法ガ含マレテ居リマスノデアリマス、例ヘバ許可認可等申請書添付書類ノ省略、行政處理ニ關スル一定手續ノ省略、行政處分ノ際ノ審査會ヘノ付議ノ省略等ノ如キデアリマス、次ニ第二項デアリマス、第二項ハ第一項第五號ノ場合ニ於キマシテ、甲ノ行政廳又ハ官吏ノ職權ガ乙ノ行政廳又ハ官吏ノ職權ニ移リマシタ場合ノ法律

ニ依ル罰則ノ適用ニ付テ支障ナカラシメムガ爲ノ規定デアリマシテ、戰時行政特別法案ノ第二項ト全ク同ジ趣旨ノモノデアリマス、次ニ第三項デアリマスガ、第三項ハ第一項ノ規定實施ニ關聯シマシテ必要ナル事項ヲ勅令ヲ以テ規定シ得ルコトトシマシテ、本法ノ實施上遺憾ナキヲ期シタモノデアリマス、本項ニ依ル勅令ヲ以テ規定セムトスル事項ハ戰時行政特別法案ノ場合ト大體同様デアリマスガ、本法案トシマシテハ更ニ第一項第三號ノ規定ノ運用上必要ト認メラル、申請書等ノ受理ノ證明、又ハ許可認可等アリタルモノト看做サレタルコトノ證明等ニ關スル事項ヲモ規定致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、以上戰時行政特別法案及許可認可等臨時措置法案ノ内容ノ概略ヲ御説明致シタノデアリマスガ、此ノ際念ノ爲ニ附言致シテ置キタイと思ヒマスルノハ、只今御説明致シマシタ二ツノ法案ハ、何レモ既ニ存スル禁止制限ヲ解除シ、許可認可等ヲ要スル事項ヲ簡捷化シ、又ハ指導監督及處分等ヲ爲ス行政廳又ハ官吏ノ職權ヲ單純化簡素化致スコトヲ目途ト致シテ居ルノデアリマシテ、國民ニ對シテ新ナル義務乃至ハ負擔ヲ課スル等、新規ノ統制法規ヲ定ムルガ如キ趣旨ヲ含ムモノデハナイノデアリマス、斯カル新ナル必要ニ應ジマスル爲ニハ國家總動員法ヲ發動スルトカ、他ノ法律ノ運用ニ俟ツトカ、或ハ別個ノ新ナル立法ノ手續ヲ爲スベキモノト考ヘテ居ルノデアリマス、更ニ以上ノ二ツノ法律案ノ御審議ノ御參考ノ爲ニ、別途政府ニ於テ御制定ヲ仰イデ居リマスル戰時行政職權特別例ニ付其ノ概略ヲ申上ゲタイト存ジマス、戰時行政職權特別例ハ現時局

下戰爭先遂ノ爲絶對其ノ生産ノ増強ヲ圖ラナケレバナラヌト考ヘラレマスル鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機等ノ重要軍需物資ニ關シマシテ、之ガ生産ノ飛躍的擴充ヲ達成セムガ爲ニ必要ナル行政職權ニ關スル特例ヲ定メムトスルモノデアリマシテ、先ヅ大東亞戰爭ニ際シ是等重要軍需物資ノ生産擴充ニ付テ内閣總理大臣ニ於テ各省大臣ニ對シ必要ナル指示ヲ爲シ得ルノ途ヲ拓キ、以テ生産部面ニ於ケル戰時行政ノ強力ナル推進統一ヲ圖ルト共ニ、事宜ニ應ジマシテ右生産ニ關係アル行政官廳又ハ官吏ノ職權ヲ調整シ、以テ指導監督ノ單純一元化ヲ圖ルコトト致シテ居ルノデアリマス、先ヅ第一ニ大東亞戰爭ニ際シ鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機等ノ重要軍需物資ノ生産擴充上特ニ必要ナルトキハ、内閣總理大臣ハ關係各省大臣ニ對シ必要ナル指示ヲ爲シ得ルコトトシ、行政ノ綜合的重點的有機的ナル運営ヲ庶幾スルト共ニ、強力ナル推進機能ヲ期待セムトスルモノデアリマス、本令ハ鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機ノ五ツノ超重要軍需物資ノ飛躍的ナル生産擴充ヲ目途トスルモノナルコトヲ先ヅ掲ゲテ其ノ重點ヲ明カニシタノデアリマスガ、航空機等重要軍需物資ト致シマシテ、將來事態ノ推移ニ應ジマシテハ銅ノ如キ非鐵金屬、其ノ他必要ナル重要軍需物資ノ生産擴充ノ爲ニモ活用シ得ルノ餘地ヲ存シテ居ルノデアリマス、指示ハ是等重要軍需物資ノ生産擴充上特ニ必要ナル場合、其ノ必要ノ限度内ノモノナラバ、廣ク關係各大臣ノ所管行政ノ一切ニ及ブモノデアリマシテ、尤モ軍機軍令ニ關スルモノノ如キハ除カレルコトハ當然デアリマスガ、是等重要軍需物資ノ生産行政ノ範圍ノ

ミニ限定サレテハ居ナイノデアリマス、第二ニ大東亞戰爭ニ際シ、是等重要軍需物資ノ生産擴充上特ニ必要ナル場合ニ於テハ勞力、資材、動力及資金ニ關スル各省大臣ノ行政事務ノ一部ヲ勅命ヲ仰イデ内閣總理大臣自ラ行ヒ、又ハ他ノ各省大臣ヲシテ行ハシムルコトヲ得ルコトトシマシテ、當該事業ニ關スル指導監督ヲ綜合強化シ、單純化セムトスルモノデアリマス、第三ニ只今申上ゲマシタ主務大臣相互間ノ職權ノ變更ヲ爲ス場合ヲ除キ、同様ノ趣旨ヲ以テ内閣總理大臣ニ於テ事宜ニ應ジテ、其ノ他ノ行政官廳又ハ官吏ノ職權ノ調整ヲ行フコトヲ得ルコトトシテ居ルノデアリマス、第四ニ前ニ述ベマシタ所ニ依リ行政職權ノ調整ヲ行ヒマシタ場合ニ於テ必要アル時ハ、内閣總理大臣ハ關係官廳ノ職員ヲシテ臨時ニ他ノ關係官廳ニ於テ職務セシムルコトヲ得ルコトトシ、以テ行政能率ノ向上ト事務連絡ノ圓滑トヲ期シタノデアリマス、第五ニ此ノ行政職權ノ移動ガ行ハレマシタ場合ノ罰則ノ適用ニ付テ支障ナカラシムル規定ヲ設ケマスルコトハ、大體法律案ニ付テ御説明シタ所ト同様デアリマス、第六ニ本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ヲ内閣總理大臣ニ於テ定ムルコトト致シマシテ、本令ノ實質上遺憾ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス、以上ガ戰時行政職權特別例ノ内容ノ概略デアリマスガ、此ノ戰時行政職權特別例ハ先程來御説明致シマシタ二ツノ法案ト彼此相呼應シマシテ、戰時行政ノ強力ナル推進運營ニ重要ナル役割ヲ果スモノト考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ教育基金特別會計法外二十三法律ノ廢止ニ關スル法律案ニ付テ御説明申上ゲマス、近來法律ノ數ガ非常ニ

多數ニ上ツテ參リマシテ、行政事務ノ處理モ勢ヒ複雑煩瑣ニナツテ居ル次第デゴザイフスガ、是等多數ノ法律ノ中ニハ制定後ニ於ケル事情ノ變化ニ依リマシテ、現在ノ狀況ノ下ニ於テハ最早其ノ存置ノ理由ノ乏シクナツタモノモ相當アルノデゴザイマシテ、是等ノ法律ハ此ノ際之ヲ整理致シマシタナラ、煩雜ナル行政ヲ簡捷化スルノニ役立ツモノト存ゼラル、ノデアリマス、仍テ政府ニ於キマシテハ、右ノ趣旨ニ依リマシテ茲ニ廢止スルヲ適當ト認メラル、モノ二十四法律ヲ選ビ出シタノデゴザイマスガ、是等ノ法律ニ付キマシテ個別的ニ其ノ理由ノ概要ヲ申上ゲマス、先ヅ本法案ノ第一條ニ掲ゲマシタ各法律ニ付テデアリマスガ、此ノ中デ教育基金特別會計法、教育改善及農村振興基金特別會計法及對支文化事業特別會計法ノ三ツノ法律ハ、何レモ是等ノ法律ニ依リ設ケラレマシタ各特別會計ガ、會計ノ現狀カラ見マシテ、最早特ニ特別會計トシテ存置セシメテ置ク必要ガ薄弱ニナツテ來タモノナラデアリマス、即チ教育基金、特別會計ハ日清戰爭ノ結果、清國ヨリ得マシタル償金ヲ以テ作りマシタ償金特別會計資金ノ内カラ組入レラレマシタ所ノ元資金ヲ以テマシテ、其ノ運用利殖金ヲ普通教育費ニ使用スルガ爲ニ明治三十二年ニ設ケラレタモノデアリマスガ、其ノ後日露ノ戰役ニ際シマシテ、其ノ資金ノ殆ド全部ヲ臨時軍事費特別會計及一般會計ニ於テ繰替使用致シマシテ、其ノ儘今日迄返還サレテ居リマセス爲ニ、爾來歲出豫算ヲ計上シ得ナイ状態ニナツテ居リマス、ト、又一方ニ於キマシテ普通教育費ノ財源ト致シマシテハ、別ニ預金部ノ低利資金融通ノ途モ拓カレテ居リマス、其ノ他

普通教育關係費用トシテ國庫補助金又ハ獎勵金等トシテ一般會計ニ計上サレテ居ル金額モ近來相當多額ニ上ルヤウニナツテ參リマシタノトデ、現在デハ特ニ此ノ特別會計ヲ維持シテ置ク必要ハナイヤウニナツタノデアリマス、次ニ教育改善及農村振興基金特別會計ハ、造幣局資金ノ内カラ銀貨改鑄益金ヲ組入レマシタモノヲ元資金ト致シマシテ、師範教育ノ改善、農村振興ノ目的ニ使用スルガ爲ニ設ケラレタ特別會計デアリマスガ、是レ亦最近ニ於キマシテハ、一般財源ニ依リマス所ノ教育改善及農村振興ニ關スル經費ガ相當多額ニ上ツテ居リマス現狀デアリマス、本會計ヲ以テマシテ、特ニ其ノ財源ヲ特定確保致シテ置キマス必要ガ餘リナイヤウニナツタモノデアリマス、又次ニ對支文化事業特別會計ハ、所謂團匪賠償金トシマシテ支那政府カラ受領致シマシタ支那國債券、及「ワシントン」條約ニ於ケル所謂山東懸案解決ニ係ル條約ニ基イテ支那政府ヨリ受領致シマシタ國庫證券、山東嶺山補償金等ヲ所屬ノ權利ト致シマシテ、其ノ元利償還金、運用利殖金等ヲ以テ、對支文化事業ノ助長ニ充テマス爲、設置セラレタモノデアリマスガ、支那事變ノ勃發シマシテ以來、右元利償還金ノ支拂ハ杜絶スルコトトナリマシタシ、又一方興亞文化事業費ト致シマシテハ、對支文化事業ノ爲、一般財源カラ支出致シテ居リマスモノガ、近時巨額ニ達シテ參リマシタ事情モアリマス、ト、本特別會計モ亦存置ノ必要ガ乏シクナツテ參リマシタモノデアリマス、近頃特別會計ノ設置セラレマスモノガ年々相當數ニ上ツテ居リマス際、成ルベク會計制度ヲ簡素明確ナラシムル上カラ致シマシテ、以上ノ如ク既ニ存置

ノ意義ノ乏シクナツタ各特別會計ハ、之ヲ廢止スルコトト致スノガ適當ト認メラレル次第デアリマス、尙昭和十年法律第五號、昭和十三年法律第九號ハ、對支文化事業特別會計ニ關スル特例ヲ設ケタ法律デアリマシテ、同特別會計ヲ廢止スルコトニナリマスレバ、自然不要ニ歸スル法律デアリマス、ソレカラ第一條ニ掲ゲマシタ所ノ職員健康保險特別會計法デアリマスガ、是ハ昭和十八年四月一日カラ職員健康保險ヲ健康保險ニ統合シテ行クコトニナツテ居リマスルガ、之ニ伴ヒマシテ、同法ニ依ル職員健康保險特別會計ハ、健康保險特別會計ノ方ニ吸收セラレベキモノトナツタノデアリマス、從ヒマシテ同法ハ自然不要ニ歸スルコトトナラノデアリマス、次ニ本法案ノ第二條ニ掲ゲラレマシタ各法律ニ付テデアリマスガ、先ヅ昭和十一年法律第三十七號、土地賃賃價格調査法、土地賃賃價格調査委員會法及土地賃賃價格改訂法ヲ一括シテ申上ゲマスガ、土地賃賃價格調査法以下三法律ハ、地租課セラルベキ土地ニ付テ、政府ニ於キマシテ其ノ基礎トナルベキ賃賃價格ヲ調査決定致シマスル爲ニ必要ナ事項ヲ定メタ法律デアリマスガ、是等ノ法律ニ基キマシタ調査ハ總テ既ニ完了シ、又調査ノ關聯事項モ結了致シマシタノデ、各法律ハ何レモ存置ノ必要ノナクナツタモノデアリマス、昭和十一年法律第三十七號ハ、右土地賃賃價格改訂法ノ施行ニ伴ヒマシテ必要トナリマシタ耕地整理法上ノ特例ヲ設ケタ法律デアリマスガ、是レ亦右改訂法ヲ廢止スルコトニ致シマスレバ自然不要トナル法律ナノデアリマス、次ニ昭和二年法律第四十一號ハ、嘗テ我が國ニ於テ官民共ニ外國製品ノ使用ニ

慣レテ國產品ノ試用ヲ好マザル傾向ノアリマシタ當時ニ於キマシテ、國產品獎勵ノ一方策トシマシテ、官廳用品ニ特ニ國產品ヲ充用スルコトニ努メマス爲ニ、其ノ實行ニ必要ナル會計法上ノ特例ヲ設ケタ法律デアリマスガ、現下ノ狀況ノ下ニ於キマシテハ、特別ニ斯カル方策ヲ講ズル必要モナイヤウニナツテ參リマシタノデ、同法モ亦存置ノ必要ナキモノト認メラレルノデアリマス、次ニ明治三十八年法律第三十五號ハ、北海道ニ於キマシテ、一級町村及二級町村ヲシテ其ノ町村内ノ租稅外國庫歲入ヲ徵收サセ得ルコトヲ定メタ法律デアリマスガ、最近北海道ニ於キマシテハ、交通モ能ク發達シテ參リマシタシ、又郵便局ノ數ガ殖エテ參リマシテ、國庫金收納場所モ多クナツテ參リマシタノデ、是等ノコトヲ考ヘマス、事務ノ輻湊致シテ居リマスル町村ヲ租稅外國庫歲入ヲ徵收送付セシムルノ必要ハナクナツタト申シテ宜イノデアリマシテ、同法モ之ヲ廢止シテ差支ナイモノデアリマス、次ハ明治二十八年法律第二十二號デアリマスガ、是ハ補充兵役又ハ國民兵役ニ在リマシテ、召集セラレタ者及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタ者ニ付テノ身分取扱ヲ規定シタモノデアリマスガ、此ノ中ノ前者ニ付キマシテハ、別ニ規定ガ整備サレマシタシ、後者ニ付キマシテハ、現下ノ狀況ノ下ニ於キマシテ國民軍ト云フヤウナ特別ノ部隊ノ編成ハ之ヲ廢スルコトト致シテシマッタノデアリマス、何レモ此ノ規定ノ必要ガナクナツタモノデアリマス、次ノ明治三十四年法律第三十九號ハ永代借地權ノ基本法デアリマシテ、其ノ權利ノ性質、移轉ノ手續、競賣ノ手續等ニ關スル規定ヲ定メタモノデアリ

マスガ、此ノ永代借地權ハ關係國諒解ノ下ニ、昨年三月、其ノ整理ニ關スル勅令ノ制定ヲ仰ギマシテ、此ノ勅令ニ因リ、當時現存シマシタモノハ、總テ土地所有權ニ轉換サレテシマッタノデゴザイマス、從ヒマシテ其ノ基本法モ亦之ヲ廢止シテ支障ナイモノト考ヘラレルノデアリマス、次ノ昭和二年法律第五十六號ハ、例ノ昭和二年金融恐慌ノ際、臺灣ニ於ケル金融機關ニ關スル救濟方策ト致シマシテ、政府ガ日本銀行ニ命ジテ之ニ對シテ資金ヲ融通サセマスト共ニ、政府ハ日本銀行ノ之ニ因ル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲シ得ルノ途ヲ拓イタ法律デアリマシテ、當時、本法ニ依リ日本銀行ヨリ臺灣銀行外ニ銀行ニ對シテ資金ヲ融通致シタノデアリマスガ、之ニ基ク債權債務ノ關係ハ現在ニ於テ總テ結了致シテ居リマスノデ、同法ハ之ヲ存置スルノ必要ハナクナッタモノデアリマス、次ニ農工銀行補助法ハ、農工銀行ノ營業ヲ補助致シマス爲、其ノ株式引受資金ヲ政府カラ府縣ニ交付シ、又ハ一定ノ交付金ヲ政府カラ特定ノ農工銀行ニ交付スルノ途ヲ拓イタ法律デアリマスガ、現在農工銀行ノ大部分ハ日本勸業銀行ニ合併セラレマシテ、殘存スルモノハ五ツノ銀行ニ過ギマセズ、而モ此ノ五ツノ銀行ハ何レモ其ノ基礎鞏固デアリマシテ、此ノ種補助ノ必要ハナト存ゼラレマスノデ、同法モ之ヲ存置スルノ必要ナキモノト考ヘラレルノデアリマス、次ニ絲價安定融資補償法、絲價安定融資擔保生絲買收法及絲價安定融資損失善後處置法ヲ一括シテ申上ゲマスガ、此ノ三法律ハ昭和四五年當時ノ生絲恐慌對策ト致シマシテ制定セラレタ法律デアリマシテ、生絲ノ製造又ハ加工ノ業者ニ對スル資

金ノ融通ヲ圓滑ナラシメマス爲、是等ノ融資ヲ爲シタ銀行團ノ爲ニ、政府ガ其ノ融資ニ因ル損失ヲ一定限度ニ於テ補償スルノ途ヲ拓キマシタノガ絲價安定融資補償法デアリ、更ニ絲價安定ニ資スル爲、是等ノ銀行ガ融資ノ擔保トシテ保有シテ居リマシタ生絲ヲ政府ニ於テ買上ゲルヤウナ途ヲ拓キマシタノガ絲價安定融資擔保生絲買收法デアリ、右買收金額又ハ既定ノ補償額ニ依リ銀行側ニ於テ尙且填補セラレザル損失ノアリマシタ場合ニ、更ニ政府ニ於テ一定限度ヲ限ツテ其ノ損失ヲ補償シ得ルコトヲ定メタノガ絲價安定融資損失善後處理法デアリマスガ、是等ノ法律ニ基キマス補償ヲ買收ハ何レモ當時完了致シマシテ、之ニ伴フ各種法律關係モ現在デハ總テ結了致シタノデ、各法律共所期ノ目的ヲ達成シ、存置ノ必要ナキニ至ツタモノデアリマス、次ニ輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法ハ、商品ヲ輸出致シマス爲ニ必要トスル資金、及輸出品製造致シマス爲ニ必要トスル資金ノ融通ヲ圓滑ニ致シマス爲ニ、是等ノ融通ニ因ル損失ヲ一定限度補償シ得ルコトヲ定メタモノデアリマスガ、此ノ種ノ補償契約ハ大東亞戰爭ガ始リマシテ以來ハ行ハレテ居リマセシ、今後ノ交易狀勢ニ鑑ミマシテモ、同法ヲ活用スルノ必要ハナト考ヘラレマスノデアリマス、次ニ明治三十二年法律第五十三號ハ、銀行ニ關スル法律ニ定メラレテ居リマス所ノ過料ノ裁判ニ關スルコトヲ定メタモノデアリマス、是ハ先般非訟事件手續法ガ改正セラレマシテ、此ノ法律ガナクトモ非訟事件手續法ガ自然働クヤウニ改メラレマシタノデ、存置ノ必要ノナク

ナツタモノデアリマス、次ニ大正五年法律第十六號ハ、理化學ヲ研究シ、其ノ成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ目的ト致シマスル公益法人ニ對シマシテ、大正六年ヨリ十七年ヲ限リテ毎年二十五萬圓以內ヲ政府ヨリ補助致シマスコトト、右公益法人ノ業務ハ、主務大臣ノ監督ニ屬セシメマスルコトヲ規定致シタ法律デアリマスガ、補助期間モ既ニ經過致シテ居リマスシ、又右業務監督法ノ規定モ、今デハ特ニ存置シテ置ク實益モナイモノト認メラレマスノデ、同法ヲ廢止シテ差支ナイモノト考ヘマス、次ニ航路統制法ハ、嘗テ我が海運業ガ自由企業トシテ放任サレテ居リマシタ當時、業者ノ間ニ不當ナル競争ガ行ハレマシテ、是ガ爲海運ノ健全ナル發達ガ阻害サレサウナ虞ガ甚シク認メラレマシタ爲ニ、斯カル弊害ヲ排除キマシテ、適正ナル規律統制ノ下ニ、業者ヲシテ航路ノ運營業ヲ爲サシメマス爲、之ニ必要ナル規定ヲ爲シタモノデアリマスガ、現下ノ海運ハ全面的ニ國家ノ統制ノ下ニ運營業ヲレテ居リマス狀況デアリマスノデ、右ノ法律ハ特ニ之ヲ存置スルコト云フ必要ガナキニ至ツタモノト考ヘルモノデアリマス、最後ニ東北振興電力株式會社法ハ、同法ニ依リ設立サレマシタ東北振興電力株式會社ガ、昭和十六年十二月一日日本發送電株式會社ニ吸收合併セラレマシテ、消滅致シマシタノデ、最早存置ノ必要ナキニ至ツタモノデアリマス、大體以上ノヤウナ理由ニ依リマシテ、今回上述ノ各法律ノ總テヲ廢止スルコトト定メタ次第デアリマス、其ノ廢止並ニ之ニ伴ヒマシテ必要ノ起リマス所ノ經過的ノ措置、及關係法律條文ノ改正等ヲ致シマスノ必要ナル規定ヲ一括致シマシテ、茲ニ教

育基金特別會計法外二十三法律ノ廢止ニ關スル法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、以上大變長イ説明ヲ申上ゲテ恐縮デアリマスガ、何卒御審議アラムコトヲ切望致ス次第デアリマス

○委員長(伯爵藩口直亮君) 何か本委員會ニ於テ審議スル必要上、御必要アリマス資料等ガゴザイマシタナラバ、政府ニ御要求ニナルノハ、成ルベク此ノ際願ヒマス

○伍堂卓雄君 斯ウ云フ資料ガ、最早衆議院ニ御提出ニナツテ居リマシタナラバ伺ハシテ戴キタイノデスガ、ナケレバ出シテ戴キタイ、許可認可等臨時措置法ノ中ニアリマシタ、勅令以下ノ命令ニ依リ許可認可事項ノ閣議決定ニ依ル處置、アレニ依ツテ既ニアレハドウ云フ風ニナツテ居リマスカ、其ノ處置サレマシタ經過ハドレダケノコトヲ處置サレタカ、其ノ資料ヲ御願ヒシマス

○政府委員(森山銳一君) ソレハ出テ居リマス

○塚本清治君 戰時行政特例法案ノ審議ノ資料トシマシテ、同法案第一項、第一號、第二號ノ必要ヲ認メラレル、差迫ツテ此ノ法律ノ適用ヲ、即チ此ノ法律ヲ執行セラレムトスル、制限又ハ禁止ヲ解ク場合、御説ノ中ニ一項ノ一號ニ付テ、一、二ノ例ヲ御示ニナリ、二號ニ付テ一ツノ場合ヲ御説明ニナリマシタガ、必ズモット澤山御アリニナルガラウト思ヒマスカラ、其ノ例ヲ示シテ戴キタイ、ソレカラ許可認可等臨時措置ニ關スル法案ノ執行ノ必要ヲ認メラレル場合、之モ成ルベク其ノ例ヲ示シテ戴キタイ、ソレダケデアリマス

○政府委員(森山銳一君) ソレハ其ノ機會ニ申上ゲマス

○委員長(伯爵溝口直亮君) 政府ニ於テ要求セラル、祕密會ニ於テノ、陸海軍及企畫院ノ當局者ノ御説明ハ、本日午前都合ニ依ッテ出來ナイサウデゴザイマス

○竹下豐次君 資料ノコトニ付テ、衆議院ノ委員會デ色々資料ヲ要求サレテ居ルヤウデアリマスガ、御纏ニナリマシテ一括シテ戴クコトガ出來マシタラ仕合セト思ヒマス

○政府委員(森山銳一君) ソレハ衆議院ニ要求ガアリマシテ、政府ノ方カラ衆議院ヘ提出出來ルモノハ全部提出致シマシタノデ、ソレハ一括シマシテ貴族院ノ委員會ノ方ニモ提出スルヤウニ手配シテゴザイマス、併シ衆議院ノ要求ハ、全部ヲ之ヲ準備シテ提出スルコトガ出來マセズデシタカラ、其ノ點ニ付テハ政府側カラ提出出來ナイト云フ理由ヲ述ベテ、サウシテ御了解ヲ得タ次第デアリマスガ、衆議院ノ委員會ニ出シマシタ分ハ、全部貴族院ノ此ノ委員會ニ提出スルヤウニ手配ハ致シテアリマス

○山岡萬之助君 速記ナシデ伺ヒタイノデスガ、

○委員長(伯爵溝口直亮君) 速記ヲ止メテ……

(速記中止)

○委員長(伯爵溝口直亮君) 速記ヲ始メテ……本日ハ此ノ程度ニ於テ散會致シマス、次會ハ明後月曜日午前十時ヨリ開會致シマス

午前十一時五分散會  
出席者左ノ如シ

- 委員長 伯爵溝口 直亮君
- 副委員長 織田 萬君
- 委員 侯爵西郷 從德君

政府委員

- 法制局長官 森山 銳一君
- 法制局參事官 佐藤 基君
- 同 入江 俊郎君

侯爵淺野 長武君

子爵谷 儀一君

子爵織田 信恒君

男爵赤松 範一君

塚本 清治君

伍堂 卓雄君

男爵山本秀二郎君

男爵近藤 滋彌君

山岡萬之助君

瀧 正雄君

竹下 豐次君

野田六左衛門君